

企業名	株式会社サンナテクノロジー	金融機関名	尼崎信用金庫
知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的		製造業	特許
軽く、加工自由度が高い軽量放射線遮蔽材とX線、γ線、中性子線まで一つの放射線遮蔽材で遮蔽できるワンストップ型軽量複合遮蔽材を開発し、大強度陽子加速器施設（J-PARC1）にて採用されるなどしている。 電子デバイス・商業用原子炉などの技術分野に進出するために知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。			
知財ビジネス報告書への記載概要			
過去～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との共同研究開発や成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業2）による研究開発を実施し、従来の放射線遮蔽材とは異なり、 複合材料で軽く（鉛の約1/4の比重）、加工自由度が高く（場所等に合わせた加工可能）、高い放射線遮蔽効果をもつ軽量放射線遮蔽材と、複合材料によりX線、γ線、中性子線まで一つの放射線遮蔽材で遮蔽できるワンストップ型軽量複合遮蔽材を開発した点について整理	
	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	品質として安定性、信頼性、再現性の確保をする必要があるという課題に対し、高付加価値化・差別化戦略として、高い技術力（軽量・高性能、ワンストップ遮蔽、形状自由等）を活かして、① 軽量・ワンストップ遮蔽の実績ある技術から、研究施設等への遮蔽材の提供 ② 軽量・加工容易性 を活かして、先端技術分野での 高難度・特殊な用途に対する遮蔽材の開発 ③ 鉛フリーを強調して、教育分野など人体や環境の安全保護が強く求められる分野への展開 を実施することを整理	
現在～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	安定生産技術・量産技術の確立のため、 研究継続により品質の安定性・信頼性にかかるパラメータの抽出・外注先の選定・周辺領域でのテスト、秘密保持の徹底・生産設備の導入・専門性の高い人材の確保と教育 を実施することを整理。新しい分野への橋頭保を作るため、 試作品の計画・開発・検証（PDCA）・販路拡大のための商社等とのコネクション確立 を実施することを整理	
	作成を支援した機関名・氏名	箱守法律事務所 弁護士・中小企業診断士 箱守英史氏	



J-PARC加速器 3 GeVシンクロトロン入射部
写真提供：J-PARC

大強度陽子加速器施設（J-PARC1）にて採用された軽量放射線遮蔽材（特許第7204133号）

尼崎信用金庫からの評価結果

知財ビジネス報告書 を通じて認識した強み	改めて認識した点	軽量で形状の自由度が大きく、画期的な発明と認識していたが、早く上市できるよう各種支援策を提案、同事業も以前より薦めていたものの、日本原子力開発機構との共同特許に係る関係上、同機構の承認が必要なため、なかなか同事業への申請が叶わなかった。
	新たに認識した点	Go-Tech事業に採択されていたのは知っていたが、その事業で中性子まで遮断できる特性の開発であったとは知らなかったので、更なる強みが発見できた。
知財ビジネス報告書 を通じて認識した課題	改めて認識した点	画期的な製品だけに、販売方針・方法を誤ると死の谷（製造量・品質等で）に陥る可能性もあり、自社生産か外注への依存等慎重に対応していく必要があると思われる。
	新たに認識した点	製造方法等営業秘匿している部分も多く、外注先の紹介や自社で製造する場合の設備投資計画等、どのように対応すべきか検討を要する。
将来のビジネス展開に 向け金融機関として サポートできる点	・外注先の紹介依頼されていたものの品質面、秘密保持面で対応できる企業は紹介できていない。出来ればINPITより紹介できる企業があれば助かる。 ・自社で生産するとなると大きな投資計画が必要となると思われるため、補助金等活用していく必要があると考える。 ・現状同社が考えているよう、一気に売上増加を図るより、取引先であるJ-PARCや高エネルギー加速器研究機構の紹介により徐々に需要を高めていくことが良いのではと考える。	

サンナテクノロジー社からのコメント

知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた 新たな気づきがあったか	当社の保有技術と特許の内容について、時系列を含め、俯瞰的に整理ができました。 当社の現時点での立ち位置、製品の強み弱みについての気づきを得たように考えます。
知財ビジネス報告書をどう活用できそうか	今後の資金調達にかかる資料として活用させていただきたいと考えております。 また、新たな顧客や共同研究予定者へのPR資料としても活用させていただきます。